

2010年 8月23日 鉄鋼新聞

非鉄

(6)

航空機向けアルミ青銅材

大和合金、中国で初受注

北米市場にも拡販

非鉄金属

銅合金鍛メメーカーの大和合金（本社・東京都板橋区、社長・萩野茂雄氏）はこのほど、中国北京の国営航空機整備会社からランディングギア向けのフッシュ部品を受注した。中国での航空機向け材料の受注は初。今後はさらに海外での拡販を進める計画で米国での市場獲得も模索する方針だ。

フッシュは押出や鍛造で製造する円筒形の素材。大和合金ではアルミ青銅の合金を航空機関連市場に供給してきた。用途は足廻りの軸受けで、航空機整備会社や部品会社が軸受けに加工している。

受注に向けた取り組みは1年越し。昨年9月に東京都の支援を受けて航空機関連の見本市「アジアン・エアロ・スペース・2009」に出展しており、そこで得た関係を受注

につなげた。航空機向けのフッシュは国内大手グループの航空機整備会社向けなどで20年来の供給実績があるが、中国での受注は初めて。認定取得に向けて英文の品質保証書を作成するなど準備を進めてきた。

今後は中国でさらに受注を目指すほか、北米での拡販も模索する。萩野源次郎常務は「海外で販売するため要求レベルが今回の受注で分かった。今後はそれをものづくりに反映させたい」と話している。

受注に向けた取り組みは1年越し。昨年9月に東京都の支援を受けて航空機関連の見本市「アジアン・エアロ・スペース・2009」に出展しており、そこで得た関係を受注